

【事例紹介】

大阪成蹊大学における留学生支援

-入学から卒業まで、一貫した学生支援体制の構築に基づく
就職支援のあり方について-

Consistent Support System for Students from Other Countries in Osaka
Seikei University: Job Hunting Support

大阪成蹊大学学生本部学生部留学生支援センター

(Support Center for Students from Other Countries in Osaka Seikei University)

キーワード：留学生支援、学生支援、就職支援、フォローアップ

1. はじめに

大阪成蹊大学（以下、「本学」）は、2014年、2015年、2017年の計3回、「日本留学 AWARDS¹」の私立大学文系・西日本部門において「留学生に勧めたい進学先」として選出いただいた。手厚く、丁寧に、学生に寄り添う本学の学生支援の特色やその成果を、多くの先生方に評価いただいたものと考えている。今号の『留学交流』の特集テーマである「外国人留学生のための留学後の就職とフォローアップ」に関しては、多くの大学が様々な工夫を凝らしているとともに、進学先を探している留学生や日本語学校においても非常に関心の高いテーマでもある。ただ、留学生に対する就職支援のあり方を考える際には、「就職」に至るまでの過程、つまり入学から就職内定を獲得するまでの間の、留学生が社会から評価される人材に大きく成長するための学びと、学生指導・支援のあり方もまた重要な論点となってくる。そのため本稿では、就職支援のみならず、留学生の入学から卒業まで一貫した、本学の学生支援の取組みを事例として紹介し、留学生に対する就職支援のあり方を考える一助としたい。

2. 本学の概要

本学の母体となる学校法人大阪成蹊学園は1933年に創立された、85年の歴史を持つ総合学園で、現在、傘下に大阪成蹊大学、びわこ成蹊スポーツ大学、大阪成蹊短期大学、大阪成蹊女子高等学校、大阪成蹊短期大学附属こみち幼稚園を擁し、在籍者数約6,800人、教職員数約500人、卒業生総数約

¹ 日本留学 AWARDS

<http://www.ryugakuawards.org/-2017-c1aa1>

11万人の伝統と実績を持つ。建学の精神「桃李不言下自成蹊」は、司馬遷の『史記』に由来する故事成語で、「桃や李(すもも)は何も言わないが、その美しい花や実にはひかれて人が集まってくるので木の下には自然と小道(蹊(こみち))ができる」という意味から、徳が高く尊敬される人のもとには多くの人が集まってくるという譬えであり、このように徳があり人に慕われ信頼される「人間力」を備えた人を育てることを教育の基本目標としている。また、誠を尽くし人の立場になって考え行動する「忠恕」を建学の精神を実践するにあたっての行動指針としている。

大阪成蹊大学は、大阪市東淀川区相川に位置し、大阪梅田から17分の都市型大学である。マネジメント学部、芸術学部、教育学部の3学部から構成しており、2017年4月現在では、入学定員477人、入学者数517人、在学生数1,983人となっている。また、就職希望率、就職率は、2016年度卒業生実績では、就職率98.2% (全国平均: 97.6%)、就職希望率88.0% (全国平均: 74.7%) となっている。²

なお、本稿で紹介する本学の学生指導・支援の中心を担う学生部、就職部の職員数は、2017年5月1日現在で、学生部13人(うち留学生支援を主に担当する者5人)、就職部11人(うち留学生支援を主に担当する者1人、他に併設短期大学の学生の就職指導・支援を担当する者を含む)である。

3. 留学生に関する基礎データ

2017年5月1日現在の留学生数は132人で、内訳は中国99人、ベトナム11人、インドネシア4人、韓国4人、台湾4人、タイ3人、アメリカ3人、デンマーク2人、カナダ1人、ロシア1人となっている。また、2016年度卒業生における留学生の就職率は97.1%となっている。

4. 留学生の募集について

入学前の外国人留学生に対して本学が行っている活動は以下のとおりである。進学先を考えている段階から、少しでも不安を解消できるよう、必要な情報と支援を提供するように努めている。

(1) 日本語学校訪問

本学は日本語学校ごとに担当者を明確にし、教育内容や入試制度の定期的な情報提供を実施している。また、日本語学校の先生からの質問にも正確かつ迅速に回答できるように努め、ケースによっては担当役員との帯同訪問を実施し、親密度向上をはかっている。この他、日本語学校内で行われる進学説明会への参加や本学単独の説明会を企画提案する訪問をしている。

(2) オープンキャンパス

留学生に対しての特別プログラムを実施し、留学生入試の内容や入学後のサポート、留学生同士の交流会の様子などを詳しく紹介している。また、本学に在籍している留学生との懇談コーナーを開設

² 全国平均数値は、「大学等卒業予定者就職内定状況調査」(厚生労働省)及び「大学等卒業生及び高校卒業者の就職状況調査」(文部科学省)による。

するなどして、受験希望者が本学での学生生活をイメージし易いよう、企画を充実している。

(3) 入試個別相談会

日程の都合等によりオープンキャンパスに参加できない留学生もいるため、平日はもちろんのこと、休日にも個別相談会を設定している。留学生の悩みや不安を解消するため、入試内容、学生生活、就職等に関するあらゆる質問・相談のみならず、願書の記入方法や提出が必要な書類の確認にも丁寧に対応している。

(4) 入試日程

秋以降も志望校合格に向けて努力する留学生の受験機会を一定程度確保するため、例年、留学生を対象に3度の入学試験を実施している。

5. 学修及び学生生活支援について

本節では、入学が決定してから就職活動が始まるまでの留学生の学修及び学生生活に対する支援体制を紹介する。

(1) 入学前後

3月下旬に入学前教育を実施している。4年間を共に過ごす学生同士のコミュニケーションを深めることを中心に、「入学式から友人がたくさんいる」という環境を準備することで、大学生活へのソフトランディングの実現をめざしている。

入学式が終わると、フレッシュャーズキャンプを実施する。学部や学科の特性によって多少異なるが、宿泊施設に行き、上級生や教員のコーディネートの下で様々な体験学習に参加し、大学生活や自分が所属する学科・コースの学びに対する理解を深めていく。また、授業が始まってしばらくすると、新入生を対象とした留学生支援センターによる個人面談を開始する。この個人面談により、職員は留学生一人ひとりのバックグラウンドや人柄を理解するとともに、留学生との人間関係を築くことになるが、留学生はこの個人面談を通じて、困ったときはいつでも気軽に相談できる相談相手を獲得することになる。

(2) 学修

2017年度現在、留学生だけのクラス編成で実施する必修授業として、1年次に「日本語演習 1、2」及び「日本語コミュニケーション 1、2」、2年次に「日本語演習 3、4」を開講し、日本語でのコミュニケーション能力の向上のほか、日本語能力試験 N1 で高得点を取ることをめざしている。また、3年次以降は後期に「総合日本語」という選択科目を設定し、ビジネスの現場（具体的には商談、電話応対、メールのやり取り等）に特化した日本語を教えている。東京外国語大学日本語学科を卒業し、日本語教育能力検定試験に合格しているほか、英語と中国語が流暢に話せる専任教員が中心となり、海外経験が豊富で、日本語教師としての教員歴も長く、上級日本語テキストを執筆した経験を持つ非常

勤講師を活用する等して、日本語指導にあたっている。

さらに、留学生が学修の成果を発揮する機会として、毎年7月下旬に留学生スピーチコンテストを開催している。このスピーチコンテストでは、大学のみならず、併設の短期大学の学生や女子高等学校の生徒も参加する。2017年度のスピーチテーマは、「私が学長だったら」（大学・短期大学）、「日本に来て感動したこと」（女子高等学校）とした。学長や副学長等が審査員を務め、「日本語：日本語がわかりやすかったか」「内容：内容が良かったか」「魅力：人間的な魅力を感じたか」の3つの観点から評価する。毎年、多くの学生が参加して日々の学修の成果を発揮するとともに、教職員が聴衆となって留学生の成長を実感する機会の1つとなっている。

また、上記の留学生のみの授業やイベントを除く教養科目や専門科目の学修にあっては、クラス担任、ゼミ指導教員による少人数教育によって、留学生以外の学生と同様に手厚く丁寧な学修指導を行っている。

（3）学生生活

本学では全ての学生に対してアドバイザー教員を設定して、教員と職員が協働して学生支援を行うことを基本としているが、その中心となる学生部の役割は大きい。

学生生活のサポートとして、Saai-MASという出席管理システムにより毎日の授業出席状況をチェックし、適宜、授業出席の奨励を行なっている。出席状況が悪化した学生に対しては、生活状況の確認のためにも下宿を訪問し、指導・アドバイスを行なっている。また、学生の顔写真、連絡先、出身高校、取得単位数、GPA（Grade Point Average）、所属クラブ、学費納入状況、学籍異動、これまでの指導・支援の時期や内容等の履歴などの情報を細かく記録することとしており、こうした統合データ「学生カルテ」を作成することで、適切な指導・支援を実現している。

各学期の開始時に「留学生オリエンテーション」を実施し、今学期の心構えの確認と学生生活の計画を指導するほか、個別の悩み相談も受け付けながら、適切なアドバイスを行う。また、先述のとおり、入学後すぐに実施する個別面談では、学生生活の基本情報に加え、留学の目的と学修計画、本学での活動予定、卒業後の進路希望などを聴取し、本人の性格と生活状況を把握することで、以後の学生支援にも活かすようにしている。さらに、行事としては、一日でも早く大学生活に慣れ親しんでもらうための「新入生歓迎会」や、社会へ旅立つ決意と大学への感謝を一人ひとり表してもらう「卒業生送別会」を開催している。その他、外部留学生関連団体の主催する研修会、行事等に積極的に参加するよう促したり、研修旅行での引率サポートを行なっている。

留学生支援センターでは、留学生の学生生活をサポートするために「なんでも相談窓口」を開設し、以下に掲げる内容についてワンストップサービスを行なっている。

- ・入国管理局への提出書類（在留資格更新・変更の申請、資格外活動許可申請手続等）に関すること。
- ・各種奨学金申請や授業料減免申請に関すること。

- ・住まい（住宅・居住地手続・所在地）に関すること。
- ・暮らし（国民健康保険・国民年金・マイナンバー制度）に関すること。

上記のような、各種申請の丁寧な指導と学生生活全般にかかわる親身な個別相談を実施しており、すべての留学生が、将来の目標に向かって、安心して勉学に取り組むことが出来るように、きめ細かなサポートを提供している。

留学生の生活支援で最も重要なのは、入国管理局に関わる手続のサポートである。まず、在留資格の更新に関わる手続だが、新学期直前に実施されるオリエンテーションの際などに、在留期限の更新手続きが必要な留学生には、留学生支援センターが注意喚起を行ない、在留期限を意識させる。そして、在留資格が切れる2カ月前になっても本人から願い出がなければ、職員が直接連絡を入れる。なお、在留資格更新申請の際に、本人の修学状況に問題がある場合——例えば、授業の欠席が多い、修得単位数が少ない、学費の納入が遅れている、アルバイトの時間数が上限を超えそうになっている等の場合——は、アドバイザー教員とも協議しつつ、留学生と面談し指導することや、入管から要求されそうな「理由書」等の追加資料を予め準備させることもある。また、資格外活動許可申請のサポートにあたっては、一人ひとりの留学生が従事しているアルバイトの業種や時間数を、給与明細のコピー等を提出させることによりしっかりと把握し、万が一にも入国管理局から不法就労の疑いがかけられることがないように、厳格かつ適正に管理している。

また、JASSOの留学生受入れ促進プログラム、ロータリー米山記念奨学金、中島健吉記念奨学金（平和中島財団）、福和楽留学生奨学金等の奨学金の申請を希望する留学生も多い。留学生支援センターは、GPAおよび面接結果に基づき、推薦する留学生を決定し、本人およびアドバイザー教員に連絡する。アドバイザー教員は推薦状を書いたり志望理由書の作成を指導する一方、留学生支援センターの職員とともに面接の練習も行ない、一人でも多くの留学生が奨学金を獲得できるよう力を注いでいる。

6. 留学生に対する就職支援の特長

前節で紹介した学生指導・支援を通して、他の学生と同様、留学生は様々なことを学びながら成長し、就職活動に必要な姿勢を獲得するとともに、教職員との深い信頼関係を構築する。その上で留学生も就職活動を始めることとなるが、就職活動においても、以下のとおり一人ひとりの進捗を把握して丁寧な指導・支援を行なっている。

（1）個別相談・個別指導

「学生一人ひとりに寄り添う就職支援」を行なうため、学部学科ごとに就職部スタッフを専任担当として配置し、学生個別の就職活動状況をこまめに把握しながらサポートを行なっている。留学生に対しては、学部・学科ごとの担当スタッフのみならず、留学生担当スタッフを配置し、留学生向け企業求人の開拓や、留学生の個別のニーズに応じた就職活動支援を行なっている。

(2) 就活キックオフセミナー

就職活動に向けた準備が本格的にスタートする3年生の9月には、「就活キックオフセミナー」を開催する。留学生を含む全学生がこのセミナーに参加することで、これから始まる就職活動に向けて具体的にどのように準備を進めていけば良いのかを理解することができるようにしている。このセミナーの後、就職部での全学生との初回面談において顔合わせをし、希望進路のヒアリングを行なう。その後も繰り返し定期的に面談をしながら、就職活動に向けて履歴書の作成や自己分析・面接の練習など、学生とスタッフが二人三脚で必要な準備に取り組んでいく。

(3) 学内合同企業説明会／個別企業説明会

2月には「学内業界研究セミナー」を開催し、学生が様々な業界から話を聞くことができるようにしている。3月以降は「学内合同企業説明会」を2ヶ月に1回のペースで開催し、さらには、ほぼ毎週のペースで「学内個別企業説明会」を開催するなどして、年間約300社の企業を学内説明会に招致している。また、毎年5月頃には留学生を積極採用している企業を招いて「留学生のための合同企業説明会」を実施する。このように、多くの企業と連携して学内説明会の機会を充実させることで、留学生を含めた全学生の就職活動を後押ししている。

(4) 進捗管理システム

3月以降に採用選考が本格化してからも、就職部では全学生とスタッフとの面談を定期的に行なう。面談を通じて得た各学生の個別の就職活動状況については、本学独自の「進捗管理システム」にて情報を管理し、各学生の状況をリアルタイムで把握するように努めている。毎日、留学生を含む多くの学生が就職相談に訪れており、就職部での年間就職相談件数は約4,800件(2016年度実績)となっている。これは本学の学生1人あたりにつき、1年間に約22回も就職部へ相談に来ている計算になる。

特にこうした就職相談件数の多さは、就職活動開始までの学生指導・支援を通じて、留学生を含む学生と教職員との信頼関係を深めていることが要因の1つであると考えられるだろう。

7. おわりに

以上、本学における留学生に対する入学から卒業までの、一通りの支援体制について紹介したが、大学が留学生の就職活動に対する支援の効果を高める上では、それまでの学生生活においてどのように学生指導・支援を展開してきたかが非常に重要であることが分かる。そして、学生指導・支援を通して学生と教職員が信頼関係を構築するために必要なのは、教員と職員の別なく一体となって、①情報を共有する体制を整備し、②適宜、「直接」の指導・支援を徹底することである。これらは留学生に限って特別に必要なことでなく、留学生以外の学生にも同様に必要なことであり、全ての学生に対する支援に際して本学が徹底していることである。

留学生に対する「就職支援」のあり方を考える際には、就職支援、学生支援、学修支援のあり方を

一体的に考えることが必要であり、そのいずれの支援においても「『学生』として必要な支援」「『留学生』として必要な支援」「『個人』として必要な支援」の3つの支援をバランスよく行なうことが重要であると本学は考えている。今後も、アンケートやヒアリング等で学生のニーズを一層把握することで、この3つの支援のあり方を適宜検証して、留学生に対する支援の質の更なる向上を図っていきたい。

本稿が、日本の高等教育機関で学ぶことを考えている外国人留学生や日本語学校の関係者の皆様の、高等教育機関における留学生支援の現状に対する理解を深め、また広く日本の高等教育機関における留学生支援の質を高める一助となれば幸いである。

謝辞

投票いただいた日本語学校の皆様には、本稿を借りて御礼申し上げますとともに、留学生に対するこれまで以上に手厚い支援・指導と、留学生の成長をお約束申し上げます。